

# 大学生生活における LINE の利用調査と分析

## － 活用マナーと依存性の考察 －

田島博之（秀明大学 IT 教育センター）・原田輝利（同左）・大塚時雄（同左）

概要：スマートフォンの利用率の向上とともに Push 型 SNS である LINE[1]は、学生にとって欠かすことのできない通信手段へと変化してきた。秀明大学 IT 教育センターでは、年度初めに学生の IT 利用に関する調査を行っている[2]。研究者は LINE に関する設問パートを担当しているが、2017 年度の LINE 利用率は、ほぼ 100%に達した。また、本学はクラス担任制度があり、研究者はクラス運営のための連絡手段として LINE を活用している。そこで、本稿は直近の大学生の LINE 利用調査の結果に着目しながら、教育現場における LINE の活用の現状と問題点を示す。

キーワード：LINE, リテラシー教育, 情報活用マナー, 依存, SNS

### 1 はじめに

携帯通話や e-mail と比較したとき、LINE は学生からのレスポンス時間が早い。また、文字以外にも通話、画像、動画と情報伝達手段は多岐にわたる。さらに LINE の“既読機能”は、学生に情報を必ず伝える担任にとって都合がよい。

研究者は 2015 年度より学生達が利用する LINE ネットワークを活用することで、個々の学生への連絡の速度を飛躍的に向上させた[3]。

担任と学生とが直接対面する機会が極端に少ない大学において、このネットワークの軽さは重要である。その一方で、LINE を教育現場において活用していくためには、LINE を利用するマナー教育はもちろんのこと、LINE 依存への対応も必要とされる。

そこで、本研究は本学における LINE 利用調査を分析することで、今後の教育活動において LINE を有効に活用するための礎としたい。

### 2 本研究における調査の概要

調査名：「IT 教育に関する調査（2017 年度）」

調査対象：秀明大学学生（約 1800 人）

調査期間：2016 年 6 月

有効回答数：285 人

本年度の調査は 72 題の項目からなり、本研究において分析するためのデータをクリーニングした結果から 285 件の有効回答数を抽出した。

### 3 調査結果と分析

#### 3. 1 LINE の利用状況

過去 3 年にわたる本学学生の LINE 利用率を表 1 に示す。2015 年度より上昇しており、本年度は、ほぼ 100%が利用していると言って良い状況であることが考えられる。

表 1 本学学生の LINE 利用状況

調査年度	回答者	利用者	利用率
2015年	183	170	92.9%
2016年	283	269	95.1%
2017年	285	285	100%

#### 3. 2 教育における利用状況

LINE を使った連絡対象を問う項目では、約 4 人に 1 人 (24.6%) の学生が教員との連絡に LINE を利用していることがわかった。

また、講義用のグループ LINE を利用している学生は 14.4%という結果が分かった。

次に教員からの連絡取得手段を複数回答式で得た回答を図 1 に示す。

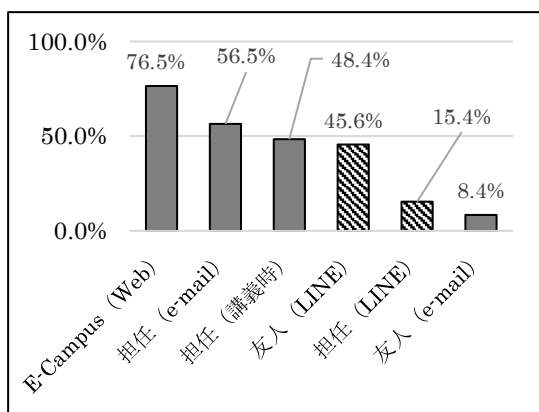


図1 担任からの連絡

担任から LINE による連絡を受けている学生は全体の 15.4%であった。また、友達からの LINE を経由して、担任からの連絡が伝わるケースが 45.6%もあった。友達の手前、教員に対して居留守を使いづらいつい状況があるのかもしれない。研究者も LINE を積極的に活用することによって、個々の学生とのアクセス時間が飛躍的に向上したことを実感している。

### 3.3 活用するためのマナー

ここでは学生の LINE 利用マナーの実態を知る一例として画像掲載に関する実態を示す。

「友人の写真を掲載する際に許可を得るか？」との問いに対する結果が表2である。

表2 友人の写真掲載時の許可

得る	ほぼ	中間	あまり	気にせず
21.8%	16.8%	33.0%	12.3%	16.1%

確実に許可を得るとの回答は 21.8%であり、全体の2割程度に留まっていることがわかる。

### 3.4 LINE 依存

「友人との関係を維持するために LINE が必要か？」の問いに対して 54.7%の学生が必要と回答している。次に「1日にどの程度 LINE を利用しているか？」の問いに対して表3の結果が得られた。

表3 1日当たりの情報発信・受信回数

メッセージ発信回数	14.8回／1日平均
メッセージ確認回数	15.2回／1日平均

スマートフォンや e-mail と比較しても、アクセス回数が多いことは想像に難くない。

送信したメッセージに返信が来ないときに、再度確認のメッセージを送った経験のある学生は 60.7%いることが分かった。フットワークが軽い反面、レスポンスがないときの、不安な心情を示した結果が反映されたと考えられる。

「スマートフォンに依存をしているか？」との質問には 41.4%の学生が自らスマートフォンに依存していると回答している。

## 4. まとめ

教育現場における LINE 利用の是非が問われるなか、学生による利用率は年々向上している。

本研究では学生たちの利用率の向上、マナーのレベル、依存状況に着目し調査分析を行った。

LINE はフットワークが軽く利用しやすい反面、学生たちの心と環境に大きな影響を与える可能性がある。これらの結果を踏まえながら、学生に対する情報リテラシー教育に結び付けていくことが重要であり、更には今後 LINE を教育現場で活用していくための肝となる。

## 参考文献

- [1] LINE, ©LINE Corporation によるコミュニケーションツール
- [2] 田島博之, “第6章 LINE 利用状況調査”, 秀明大学 I T 教育に関する調査報告 2016 年度版, 秀明大学 I T 教育センター pp. 49-81 (2016)
- [3] 田島博之, 大塚時雄, “大学生の Push 型 SNS の活用調査～日本人学生と留学生の比較～, 日本教育工学会第 32 回全国大会講演論文集, pp. 551-552 (2a-A302-08), (2016)
- [4] 総務省 情報通信政策研究所, “青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査 調査結果報告書”, <http://www.soumu.go.jp/.../telecom/2013/internet-addiction.pdf>, (2013 年 6 月)